

文京区立第九中学校 校長室通信

「文京九中 ここにあり」



平成28年度 第8号
平成28年12月9日発行



文京区立第九中学校 校長 小 椋 孝
■ TEL 03-3821-7178 ■ FAX 03-5685-4955
■ H P <http://www.bunkyo-kyo.ed.jp/daikyuu-jh/>

「師走」から「新年」へ ～それぞれの成果と課題を来年の飛躍につなげよう！～

早いもので、1年で最も長い2学期も12月を迎え、まとめの時期となりました。

学校では、12月2日（金）から9日（金）の期間に三者面談を実施しました。3年生は具体的な進路決定のための面談、また1・2年生は、4月に控えている上級学年への進級を見すえ、今までの生活を振り返り、頑張った点や努力した点、またなかなかうまくいかなかった点を明らかにした上で、ご家庭と共に今後の具体的な努力目標を定めていこうとする趣旨の面談だったと思います。

生徒の皆さんには、ぜひ面談の内容を踏まえ、現在の自分をしっかりと見つめた上で、「新年」の目標を立ててほしいと思います。日本には、「新年」と「新年度」の2回、このように志を立てる機会があります。「新年」の目標は、ぜひ大きな志で立ててほしいものです。そのためにも、しっかりと自分自身の努力した点、頑張るべき点について評価し、将来につなげていってほしいと願っています。

「世界人権デー」及び「第68回人権週間」によせて

12月10日は、「世界人権デー」です。これは、昭和23年（1948年）に国連において、世界における自由、正義及び平和の基礎である基本的人権を確保するため、全ての人民と全ての国とが達成すべき共通の基準として「世界人権宣言」を採択したことを記念し、昭和25年（1950年）から12月10日を「人権デー」と定め、全ての加盟国及び関係機関が人権活動を推進するための諸行事を行うように定めたものです。世界人権宣言の第1条には、「すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とについて平等である。人間は、理性と良心とを授けられており、互いに同胞の精神をもって行動しなければならない」と記されています。「世界人権デー」を契機として、自分の身の周りを見つめ、改めて人権を尊重する精神を認識するよい機会としたいものです。

我が国においても、12月4日から10日までの1週間を「第68回人権週間」と定め、各種の啓発活動が実施されています。本年度は、「みんなで築こう 人権の世紀 ～考えよう 相手の気持ち 未来へつなげよう 違いを認め合う心～」という啓発活動重点目標を掲げ、右表のとおり、17の強調事項を中心に啓発活動が展開されています。

文京区教育委員会でも、12月を「いのちと人権を考える月間」として、全ての区立小・中学校でこれらを強調した取組を行っています。本校においても、全校朝会の講話や道徳、特別活動の時間をはじめとして、全ての教育活動を通じて人権を尊重する精神や態度を育成するように子どもたちに働き掛けているところです。ご家庭、地域においても、ぜひこの機会をとらえて「人権の尊重」を話題として取り上げていただき、学校とご家庭、地域の方々が手を携えていく中で、子どもたちが「互いの個性を尊重し、違いを認め合える心」の耕しをより一層推進していけるよう、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

「人権週間」17の強調事項

- ① 女性の人権を守ろう
- ② 子どもの人権を守ろう
- ③ 高齢者の人権を守ろう
- ④ 障害を理由とする偏見や差別をなくそう
- ⑤ 同和問題に関する偏見や差別をなくそう
- ⑥ アイヌの人々に対する理解を深めよう
- ⑦ 外国人の人権を尊重しよう
- ⑧ HIV感染者やハンセン病患者等に対する偏見や差別をなくそう
- ⑨ 刑を終えて出所した人に対する偏見や差別をなくそう
- ⑩ 犯罪被害者とその家族の人権に配慮しよう
- ⑪ インターネットを悪用した人権侵害をなくそう
- ⑫ 北朝鮮当局による人権侵害問題に対する認識を深めよう
- ⑬ ホームレスに対する偏見や差別をなくそう
- ⑭ 性的指向を理由とする偏見や差別をなくそう
- ⑮ 性同一性障害を理由とする偏見や差別をなくそう
- ⑯ 人身取引をなくそう
- ⑰ 東日本大震災に起因する偏見や差別をなくそう

進路選択に向けて ～ 本校の上級学校等への推薦方針をお知らせします ～

すでに3年生には進路説明会でお知らせしたところですが、本校の上級学校等に進学する際の推薦方針は、次のとおりです。詳細については、個人面談等でそれぞれの希望を受け止めながら学校体制で進めてまいります。1・2年生の保護者、生徒の皆さんもぜひこの内容をご承知おきください。特に、私立高等学校の推薦制度の活用は、一個人にとどまらず学校として次年度以降の推薦にも密接な関連をもっていますので、ご理解くださいますようお願い申し上げます。

- ① 九中における3年間を通じて意欲的に学習、学校生活に取り組み、義務教育修了時の成長が実感できることに加え、志望校においても3年間しっかりと学校生活を送ることが期待できること
- ② 志望している学校が第一希望で、合格したら必ずその学校に入学すること
- ③ 志望校が求める生徒像や推薦基準に合致していること
 - ・ 基本的な生活習慣の定着に加え、具体的に出席状況の基準を示している学校もあります。
 - ・ 学習面での基準は、評定の3科・5科・9科合計の数値で示されていることが多いです。
 - ・ 特別活動や部活動、各種検定等の実績を考慮する学校もあります。

九中の特色！「新聞への意見文」投稿 ～ 2学期掲載分の紹介（その4）～

本校では、特色ある教育活動の一環として今年度も新聞への意見文投稿を勧めています。

前号で紹介したものに引き続いて10月15日（土）に実施した「パラリンピアンとの交流・講演会」の意見文、そして合唱コンクールについての意見文が掲載されましたので紹介します。

※ 東京新聞「若者の声」 平成28年11月2日（水）掲載

車いすテニス 難しさを実感

中学生 関谷 優希（13） 東京都文京区 [1年3組]

「夢・未来」プロジェクトの授業で、パラリンピアンの方の車いすテニス、大前千代子さんが学校に来てくださいました。テニス部の方が大前さんとテニスをしたり、競技用車いすに乗っているのを見て、車いすテニスの選手は本当にすごいと思いました。足が使えない分、腕で車いすを動かし、ラケットで打ち合うことはとても難しいと思います。

また、大前さんの歩んできた人生について知ることができました。自分の課題と向き合って努力する大前さんに強く心打たれました。病気で動かなくなった足とともに生きていくことのできた精神力は、努力して乗り越えたものです。

大前さんの願いどおり、4年後にはパラリンピックにも興味をもつ人が増えるといいなと思います。

※ 東京新聞「若者の声」 平成28年11月16日（水）掲載

クラスが一丸 最高の合唱に

中学生 住吉 風輝（13） 東京都文京区 [1年3組]

初めての合唱コンクールがあった。それぞれのクラスの合唱を聞き、それぞれの展示を見る。合唱も展示も、とても素晴らしくワクワクした。

自分たちの出番になるととても緊張した。なにせ1学期から歌の練習をしていたのだ。ついに本番となるとやはり緊張するものだ。合唱曲「心の瞳」の練習を始めてすぐは、アルトなのにソプラノしか覚えられなくて、いいかげんに歌ったこともあった。アルトの人たちと協力して練習したことで、ソプラノにつられずに歌うことができた。

そして、今までの成果を出し切り、みごと金賞をとることができた。

金賞をとれたのはもちろん、何よりクラスの人たちと協力できたことが本当にうれしかった。とても思い出に残る合唱だった。